

発注企業動向調査結果

-2026.6-

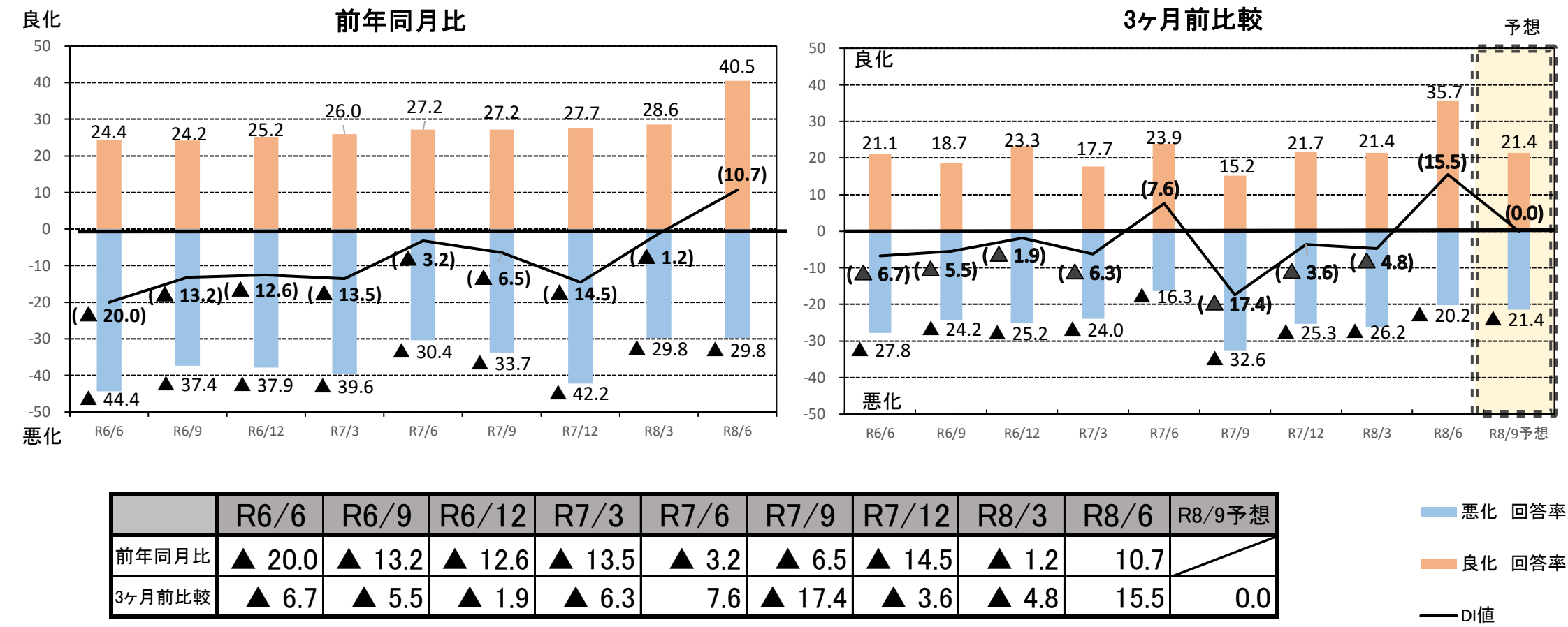
- 調査時点 令和8年6月調査(令和8年6月末時点)
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎(3、6、9、12月末時点)
- 回答企業 84社(回答率: 56.00 %)

DI(Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。

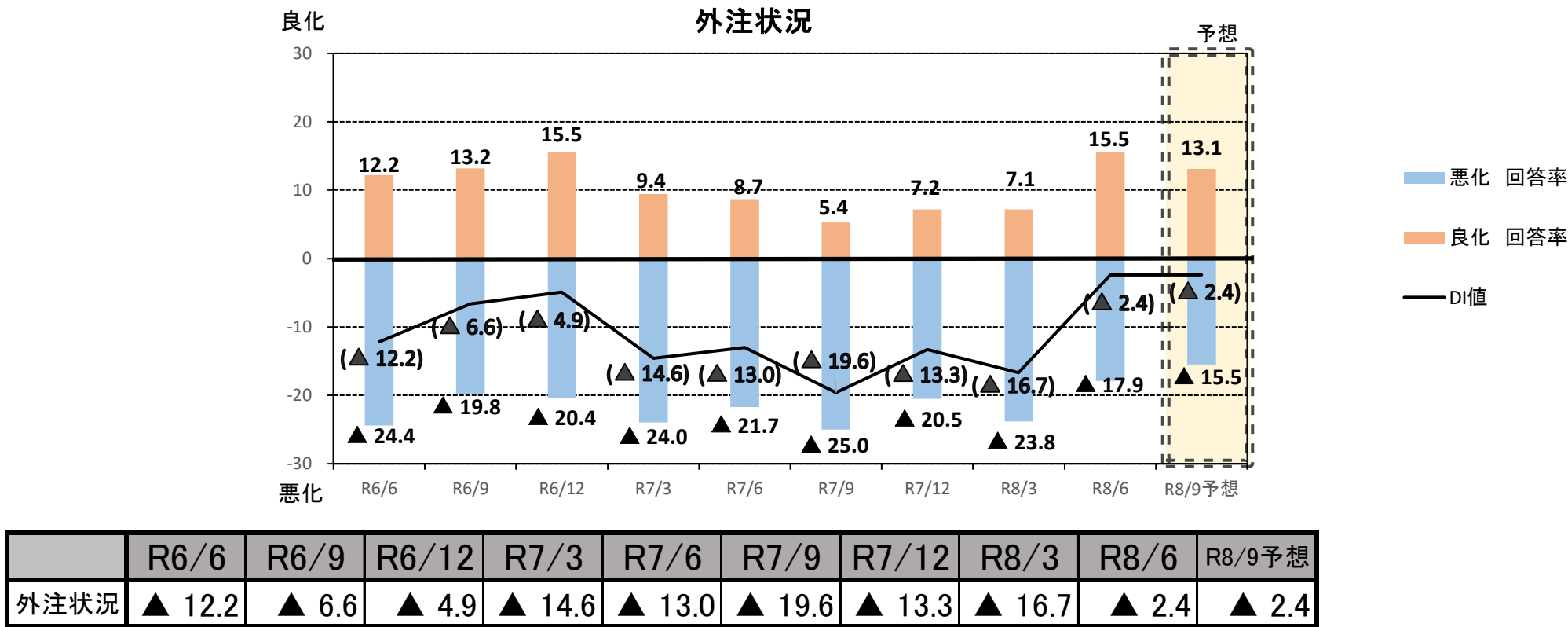
＜業種内訳＞

プラスチック	10社
鉄鋼・非鉄	10社
金属製品	5社
一般機械器具	13社
電気機器	22社
輸送用機器	18社
精密機器	3社
縫製	3社
計	84社

●生産高



●外注状況



●概要(総合)

- ・生産高(前年同月比)のDIは10.7で、前回の▲1.2から11.9ポイント増となった。
- ・生産高(3ヵ月前比較)のDIは15.5で、前回の▲4.8から20.3ポイント増となった。
- ・外注状況(3ヶ月前比較)は▲2.4で、前回の▲16.7から14.3ポイント増となった。
- ・3ヵ月後の予想DIは生産高が0.0、外注状況が▲2.4という予想になった。
- ・その他自由意見として、

【繊維工業】

- ・全てのコストが上昇しており、単価UPが追いつかない。
受注状況は去年と変わらないが、夏以降は不安要素が大きい。

【樹脂製品】

- ・日本経済の急激なインフレに伴い、消費動向が落ち込み、買い控えとなっている。
原材料等の度重なる値上げに大して、価格転嫁が追いついていない。

【鉄鋼・非鉄金属製造業】

- ・アルミが高くなっているため、今後が不安。

【電気機械器具】

- ・受注が増加しているが、中東情勢の影響で材料、薬品等の入荷を懸念している。
- ・受注案件が減っている。中東問題で材料メーカーの価格高騰、材料入手困難なため、納期対応が厳しい状況。
AI関連の材料が入手困難になっている。

という意見が寄せられた。